

会 議 録

会議名 (審議会等名)		シビックプライドの推進に関する検討委員会(第2回)				
事務局 (担当課)		シティセールス・親善交流課 電話 042-707-7045(直通)				
開催日時		令和2年2月4日(火) 18時30分~20時30分				
開催場所		相模原市役所 本館2階 第1特別会議室				
出席者	委員	8人(別紙のとおり)				
	その他	2人				
	事務局	6人 (渉外部長、シティセールス・親善交流課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開会 2 シビックプライド向上事業・(仮称)さがみはらファンサイトについて 3 条例制定について 4 その他 5 閉会				

審 議 経 過

第2回会議について、主な内容は次のとおり。

(〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言)

1 開会

2 シビックプライド向上事業・(仮称)さがみはらファンサイトについて 事務局より、令和2年3月に創設する(仮称)さがみはらファンサイトの概要について説明を行った。

事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

ファンサイトに会員登録できるのは、市民のみか、市外の方もできるのか。

市内外問わず、会員登録可能である。

市民の愛着度を醸成するとともに、関係人口を増やすことにより、魅力を拡散していただく方も増やしていくということになるのか。

そのとおりである。

サイトのみではなくて、アプリにする予定があるか。

開設当初はサイトのみで運用していくが、アプリについては、今後検討していく。

サイトよりもアプリの方が使い易い。

創設するサイトは、スマホでも閲覧できるようにはなっている。

会員登録する際に、居住地を入力する項目はあるか。入力項目にすれば、市内、市外など、どのような方が利用しているか把握できるのではないか。

今のところ、居住地を管理する予定はないが、入れることは可能である。

利用者にポイントを付与する仕組みは良いと思うが、ポイントの付与だけでは、なかなかファンになっていただけない。毎回見たくするようなコンテンツにすると良い。

まちにある店や人を紹介し、それに対する意見等を求めるとまちに対する愛着が生まれ関係人口の増加にもつながり、対外的にも評価され誇りにつながる。

このサイトは、主に市民をターゲットにしているが、市外の方から見た魅力が分かることもあるので、市外の方をターゲットにした方がよいのではないか。

もちろん市外の方に対しても本市の認知度を高めていただく、訪れていただくという目的と、既に本市にお住まいの方達に対しても本市の魅力を再認識いただくという両方の目的がある。どちらに向けてもうまく機能するようなサイトにしたいと考えている。

このようなサイトは、運営側の熱量がとても大事になるが、投稿される方と運営側の双方向のコミュニケーションは何かあるか。

現在のところ、創設時にはコミュニケーションのようなものはないが、今後、発展させていければ良いと考えている。

ファンサイトを知らない人には見るきっかけがないので、Instagramを活用して「さがみはらファンサイト」などとハッシュタグを付けて画像を投稿してもらったものをピックアップして掲載する方が、ファンサイトを知らない人が知るきっかけになると思う。

課題はいくつかあるが、解決できればハッシュタグの対応も可能であるので、検討する。

サイトだけではなくて、今後、リアルな交流のようなものは考えているか。藤沢市のファンサイトでは、交流イベントなどを行っている。

今後、検討していきたいが、どのようなものが良いかご意見をいただきたい。ポイントだけでは継続して利用していただけない。イベントなどを用意して絶えず更新していく仕掛けが必要である。

皆様より意見を伺いながら、翌年度以降にブラッシュアップしていきたいと考えている。

登録者数の目標値は。

令和2年度内に1,000名を目指しており、市のイベントなど様々な機会を捉えPRしていきたいと考えている。

運営をしながら見えてくる部分もあると思う。まずは、サイトを知ってもらうためにPRすることを1年かけてやった方がよい。

外向けに発信して、外から認められたものを中に向ける、この発想はシビックプライドには大事だと思うので、外向けの発信も行った方がよい。

若い世代はあまりサイトではなく、多くはInstagramを利用する。このため、SNSと連携してファンサイトを作った方が、若い世代にファンサイトを知っていただくきっかけとなる。

若い世代だけでなく、他の年代の方にも対応できるよう多様な入口を用意しておくことも必要である。

今回創設するサイトは非常に短い期間の中で開発を行なっている、予算的な課題もあるが、来年度以降はアプリ開発など、より利便性の高いものにできるよう検討していきたい。

3 条例制定について

事務局より、条例に関する基本的事項や、他自治体で制定している市民の市に対する誇りや愛着の醸成に関する条例などについて説明を行った。

事務局からの説明に対する主な意見等は次のとおり。

条例の制定は必要である。(全委員が条例の制定に賛成)

理念を共有するために条例化し、皆が共有できる形にすることがたいへん重要であると考えている。

これまで相模原市の中で具体的な方向性が見えていなかった。条例により具体的な指針や方向性が明確になり、分かり易いのではないかと思う。

条例制定は話題性もある。

条例制定により、本市がまちづくりに前向きな印象を与えるのではないか。

条例は賛成であるが、条例を作るだけが目的にならないように考えていかなければならない。条例のよいところは、共通の価値観がそこで生まれることである。

条例は理念的になると思うが、具体的にどのようにシビックプライドを醸成するということがないといけない。藤野地区では、これまでの様々な取組により市民のシビックプライドが高いと感じており、この取組が一つのケースになればよいと思う。

藤野はこれまでの歴史や地域性などの背景があると思うが、藤野に学ぶものなどがあれば、なぜそれがシビックプライドにつながっているのか、参考になると思う。

市民にとっても、条例は作って終わりではなくて、市民にとって大切な言葉、大切なものになるかがとても重要である。

条例と施策がセットになっていることが必要である。

条例を市民と一緒に作った方がよい。市民参加型の制定のプロセスを作ることが先進的でもあるし、シビックプライドを醸成する意味でも非常に重要であると思う。また、そのプロセス自体がPRにもなるし、そのことが「相模原市はとても良い活動をしている」と外から評価されえる。

条例の議会への提案はいつ頃を想定しているか。

令和2年12月定例会を目標としている。

それまでにどれだけ市民の意見を取り込めるか、ということになる。

ファンサイトやワークショップのようなものを行って、市民の意見を取り入れるとよい。

非常にタイトなスケジュールで進めなければならないが、市民のご意見を聴くことは大前提で考えている。

条例の内容は、いろいろな工夫があってよいと思う。例えば、前文を縦書きで読ませるとか、絵文字が入っている条例もある。高知市には土佐弁が入っている条例もある。委員会の中で練って、提案していけばよい。

町田市では、「子育てに優しい」というようなキャッチコピーがある。そのような一言で分かり易いキャッチコピーがあると、人に相模原市はどんなまちかと聞かれたときに答えやすい。

一言で言える何かがあれば、シビックプライドにつながると思う。

相模原市の特徴は都市に近く、自然のあることである。それを利用するまちづくりができれば、住みたい人が増えるし、シビックプライドが持てると思う。

川越市は都心に近いということアピールすることにより人口が増えているが、それは東京に依存しているということある。果たしてそれで愛着が醸成されるのか疑問である。横浜市は都心に近いとは言わない。東京に近いことをアピールしていくのか、横浜市のように東京等に依存しないのか、どちらを目指すのか絞らないと中途半端になってしまう。

様々な魅力を売り込み過ぎても伝わらないので、伝えたい魅力を絞ってPRした方がよいのではないか。

条例の中身として「I LOVE さがみはら」がよいと思う。

条例が未来志向の市民や市の在り方など、共感性の高い在り方を定義できれば、市民性の高い市になると思う。未来志向の条例の制定の仕方もあると思う。

検討委員会としては、「条例は必要である」という見解となった。

このため、次回の検討委員会において、条例の制定及び内容について諮問を行うこととなった。

4 その他

事務局より、3月7日(土)に開催するシビックプライドの向上に関するシンポジウムについて、情報を提供した

以 上

シビックプライドの推進に関する検討委員会（第2回）委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	加藤 優季	学生		出席
2	北村 俊明	株式会社 読売広告社 ひとまちみらい研究センター 所長		出席
3	佐藤 鉄郎	一般社団法人 藤野観光協会 事務局長	副委員長	出席
4	高田 泉	公募委員		出席
5	野村 邦丸	フリーアナウンサー ラジオパーソナリティー		出席
6	長谷川 彩華	公募委員		出席
7	牧瀬 稔	関東学院大学 准教授	委員長	出席
8	山田 康博	公益社団法人 相模原青年会議所 専務理事		出席